

## グループディスカッション

研究会2日目午後のセッション2では、グループディスカッションが行われました。6グループに分かれて、次に示す5テーマから1～2つを取り上げて議論をしていただきました。

### ディスカッションのテーマ

#### 1 科学館プラネタリウムなど、公共教育機関における障害者へのアプローチ

- ・多様性を持った方々が気軽に足を運べるような意識の持ち方
- ・すべての人が共に楽しめるような取り組みの提案や事例紹介
- ・障害者へのアプローチのしかた

#### 2 UD 天文教育普及のための資料作成、教材開発、提供

- ・視覚障害者向け(触覚型、体感型など)教材の開発やアイデア
- ・障害者対応型のプラネタリウム(字幕つきなど)の技術的課題
- ・企画や開発のプロセスを特別なニーズを持った方とともに進める必要性和実現性

#### 3 ユニバーサルデザイン天文教育の発信とネットワーク作り

- ・障害者が年齢にかかわらず天文学を学べる機会や方法、その情報入手経路
- ・健常者、障害者双方が新規参加しやすい雰囲気作り
- ・実践する人や興味関心のある人のネットワーク作り
- ・開かれた福祉の現場と地域との共同

#### 4 すべての人が共有できる、天文や宇宙に関するテーマ

- ・宇宙を身近に感じるテーマの例、あなたは何に一番興味をもちますか？
- ・共に星を見上げることの障害者・健常者双方の意味
- ・障害者と健常者で感動を共有するために、必要なものは何か？

#### 5 「普遍性を生み出す」活動を目指して、その方策と課題

- ・すべての人が楽しめる活動例の紹介
- ・触覚、嗅覚などの感覚を使った活動例やその楽しみ
- ・不便さを克服するために障害者が独自に行っている工夫やアイデアで、広く社会全般に適用できるもの
- ・「特殊な活動」を「普遍性ある活動」にするために留意すること
- ・学校教育の中で、どのように普遍性を展開できるか

#### ※5の補足説明

ここでいう「普遍性」とは、本来、障害者など特定の人を対象の活動が、その枠を超えて、すべての人が楽しめる活動へと昇華することを意味します。たとえば、視覚障害者にわかるように丁寧に図の解説をすることが、晴眼者の天文学に詳しくない人にもわかりやすい説明になったとか、聴覚障害者用に字幕をつけたら、聞こえる人も耳で聞くだけよりよく理解できたといったことを指します。また、触覚を楽しむ活動も「普遍性」の高い活動といえます。

各グループの参加メンバーは、次のとおりです。なお、ここに記したメンバーは、主催者側で事前にグループ分けをしたときのものです。当日の急な変更等により、実際に参加された方と異なっている場合

があります。また、お名前の敬称は略させていただきます。

#### グループ1

○縣 秀彦、磯部 洋明、北村 まさみ、中川 律子、平井 康之、小幡 真希

#### グループ2

○伊藤 哲也、高橋 淳、阿部 真奈美、天笠 咲子、河西 あゆみ、高橋 和哉

#### グループ3

○高橋 真理子、網倉 聖子、金安 渚、埜村 和美、嶺重 慎

#### グループ4

○富田 晃彦、石森 有子、伊藤 隆造、犬飼 岳史、今村 知世子、梶原 まるめ、酒井 朋美、  
佐藤 明子、高橋 隼、平野 都子

#### グループ5

○根本 しおみ、飯塚 高輝、石垣 梓、小島 敦子、小橋 由里子、杉中 慎、田中 芳則、西岡 克浩  
菟川 友宏

#### グループ6

○藤原 晴美、浅川 英明、臼田-佐藤 功美子、神田 美子、木村 かおる、須佐 岳彦  
(○印:グループリーダー)

以下、各グループにおける議論のまとめです。(これらの記録の文章については、特に統一したフォーマットを用意しませんでしたので、表現や体裁についてはグループごとにばらばらになっています。あらかじめご了承ください。)

### (1) グループ1の議論のまとめ

- ・「さわる」こと、「みる」ことの大切さを実感した。日常の活動の中で五感を巡らすことは健常者にとっても大切なこと。
- ・UD研究会の今後の活動は「ために」の活動か? 「ともに」の活動か?
- ・ユニバーサルデザイン vs インクルーシブデザイン  
米国より ヨーロッパより  
外から原則的に 中から気づきを大切に
- ・インクルーシブデザインをUD研究会も目指してはいいかがか?
- ・どちらの活動でも、部外者から見ると「引いてしまう」、「ダサイ」、「飛び込みにくい」等の反応を生んでしまうケースが多い。どうしたらよいか? 敷居を上げず、ゆるーい活動から始めては?
- ・活動は「熱いハートで」、でも行動は「スマート(クール)に」が原則。
- ・UD研究会で今後扱うのは、インフラの議論 or コンテンツの議論? コンテンツ中心に。
- ・議論することによって大きなビジョンが見えてくる。
- ・今は、今回の研究会のような機会を増やすことが何より大切。
- ・大学では学生の必修にしてもよいくらい?
- ・手始めのゆるーいインクルーシブデザインとしては……  
お香、手話作りとWEB へのアップ、病院での観望会、  
サロンやカフェ、、、  
多様な活動の機会をもっと作りたい。

## (2) グループ2の議論のまとめ

「社会には、健常者と障害者のギャップ(「思いこみの違い」あるいは「考え方の物差しの違い」とも表現できよう)、あるいはタイプの違う障害者同士のギャップが存在し、お互いを思うように理解できないことが、さまざまな心の共有の妨げになっていると考えられる。

このような現状を変え、誰もが知る喜びや感じる喜びを共有できる社会になるには、コミュニケーションが大事である。しかし、社会で発言をするような障害者の方はごく一部で、これまで家庭に籠もりがちだった多くの障害者の方々に社会にとけ込んでいただくには、社会からのアプローチが重要であろう。

このような社会の構築を意識し行動をしていくと、新しい課題や可能性が顕在化し、時には思わぬところでの副産物が生まれることがある。そのような社会に魅力を感じる人々が多くなるには、教育が重要であるのはすでに明らかである。

天文は対象が直接手の届かないものであるし、また宇宙のさまざまな姿自体が我々生命や地球の時間的空間的なルーツであると考え、さまざまなタイプの人々、すなわち健常者、障害者を区別することなく、根源的なところでのつながりを感じ共有することが可能であり、障害者健常者の双方の理解及び宇宙や自然の理解を併せて寄与できるという観点から、大変良い題材である。

## (3) グループ3の議論のまとめ

### 1. 天文はユニバーサルデザインの素晴らしい教材

- ・物理教育で「人生明るくなった」とは感じてくれないが、天文教育では感じてくれる。天文を専攻してよかったと思う。
- ・星が見えない人も、天文に興味のない人にも、「星をみあげる楽しさ」はきっと伝えられる。
- ・人は、根源的に宇宙や星とつながっている感覚があるのだろう。(意識にのぼらなくても)
- ・宇宙を知ることは生・死を感じることもつながる。
- ・宇宙を知ることは自分を知ることもつながる。
- ・自分が宇宙とつながっている実感。ずっと古くからの祖先も同じものを見ているという一体感。
- ・文化的遺伝子(ミーム)、自分の存在、時空を超えて伝わってくるエネルギー、そういう言葉が天文学にもつながる。
- ・知識だけでは言い表せない何かがある。天文にはある。天文をもっといろんな形でいろんな人に普及させたい。

### 2. 天文をユニバーサルにする教材開発

- ・飯塚高輝氏(竜のおとし子星の会)発表で、天体を手話表現した内容が具体的でとても素晴しかった。手話表現したことによって、天体の特徴を非常に良くつかんでいる。聴覚障害者だけでなく、健常者も視覚障害者にも、とてもわかりやすい説明になると思う。あれを、子どもも巻き込んだ「新たな天文手話づくり」ワークショップにしていって非常に面白いと思う。ひとつひとつの天体の特徴を説明しながら手話を考えていくことは、とてもクリエイティブなのでは。プラネタリウムをはじめとするいろんなところに普及できればと思う。天体手話のマニュアル本をつくってほしい。
- ・渡部潤一氏(国立天文台)・奥村泰司氏(北海道鷹栖養護学校)発表で、胃カメラを利用した天体観望接眼部の開発を利用すれば、もっとユニバーサルの活動ができると思う。
- ・その他たくさんの素晴らしい発表があった。研究会での発表をもっとチームを組み具体的に討論し、多角的視野にたった教材開発ができると思う。

### 3. ユニバーサルデザイン天文教育研究会に参加して

- ・発表の際、「場違いですが…」と断った方が多いほど、多種多様な活動の発表内容だった。組織的活動から個人活動、研究者から一般市民、健常者、知的障害者、聴覚障害者、院内学級などいろんな場での活動。異文化、異業種の人がそれぞれ違った視点からの発表を聞いて大変勉強になった。
- ・人に教える、とかメンバーを増やすなどの目的を持つのではなく、活動することを楽しんでいくことが成長、継続につながると思う。そして研究会で発表や他の活動に接することで、自己満足の活動でなく、役立つための活動へ軌道修正していけると思う。また他の人の熱意を感じることでさらに前進する勇気もらえる。
- ・この研究会に参加して、多くの方々が子どもの成長を温かく見守っていることが実感でき、大変嬉しく思う。この空間はとても居心地が良い。
- ・活動を希望しても実際、活動を許可してくれるところがない。運営などの具体例を伺いたい。
- ・是非、今後も継続してほしい。そして情報の共有化、教材の開発、意見交換を推進することを希望する。

### (4) グループ4の議論のまとめ

#### <概要>

まず、はじめに自己紹介と研究会に来た理由や感想を言い合った。保育、福祉、医療のキャリアや関わりを持った人が多く集まっているグループだった。

ディスカッションテーマ 2-5 を念頭に、これまでの体験などを話しはじめた。「自分も病院や福祉施設で何かはじめたいが、誰とコンタクトをとったらよいかわからない」という発言をきっかけに、医療や福祉の現場で新たに活動をはじめるとはどうしたらよいか、についての議論になった。「やはり正面玄関からのコンタクトでは難しい。人のつながりが大事。この研究会は、人がつながるきっかけになる。」との意見が出た。また、病院から免疫について厳しく聞かれたことがある方もおり、感染予防に対する考え方についても話し合った。「大げさな面もある。日常的ではなくときどき来るだけの人なら、ほとんど大丈夫」との医療現場の方からの発言がある一方、「相手に迷惑をかけない対策は大事」「予防接種は自分のためにもなると考えてやってみては？」といったコメントもあった。

さらに、「みなさんは、なぜ宇宙を伝えたいのですか？」という問いかけがあり、各自がその想いを語った。「プラネタリウムでは恥ずかしいことでもしゃべれる。不思議な力を感じる」「宇宙はこどものころから好きだった。プラス、病棟でできること。手元にあって自分でできること」「障害のある人とかかわるアーティストに触発された。好きなこと・得意なことを通して社会に関わる。アーティストにとってのアートが、自分にとっての天文学」「亡くなった星好きの夫のことを想ってプラネタリウムに来られた方がいる。自分自身もつらいとき星空に助けられた経験がある」「星空はタダ」「大都市でも星はいる。時間場所を超えて星空は平等」といった、コメントがあった。

共通点のある経験や想いを持った人が多く、「不思議なご縁」を感じさせるグループディスカッションだった。なお、研究会終了後も、メールでお礼や感想を言い合うなどの交流が続いている。

### (5) グループ5の議論のまとめ

※この項は、当日の議論の流れに沿った形式でまとめられています。はじめにグループリーダーから論点が提示され、それに続いてメンバーの皆さんによる議論が進められました。発言された方のお名前はすべて記号で表してありますが、Bさん、Cさん、Dさん、Eさんは聴覚障害の方です。当日は手話通

訳と要約筆記の方に手助けをいただきながら、議論がおこなわれました。(集録編集者注)

- A/ みなさん字幕つきプラネタリウムに興味を持っている。科学館やプラネタリウムなどの障害者のアプローチ。私たちは字幕つきプラネタリウムを提供する立場。見に来てくださる立場。両方いるので、意見交換をしたい。
- A/ まず他館でもそうだが、字幕をつけてプラネをやるのはかなり労力はいる。たくさんの人に来てほしい。なかなか足を運んでもらえない。思い当たる原因は？
- B/ プラネは小学校のときに1回しか行ったことがありません。大人になってからは行ったことはない。
- A/ 行きたいと思ったことは？
- B/ 考えたことはない。私の考えではプラネに行くまでのことが大切なことはないかと思う。足を運ぶのではなく、出張プラネも必要ではないか。
- C/ 大人になってからいろいろな場所に何回か行った。情報をいろいろもらっている。ほとんど字幕つきが多い。手話がつく番組も2~3回。それをご報告したい。仙台の科学館と名古屋の科学館と松戸のプラネと金沢、浜松、広島、北九州、長崎に行って情報をもらってきた。いろいろ思うこともある。字幕は暗かったり明るかったり、簡単だったり、字幕をつけるのは難しいのかどうか、いろいろ比べてちがうなあと思うのがありました。簡単な字幕がついているのがほとんど。それでも見てわかりやすいと思った。星と字幕が別な場所にあったりするのはどうかと思う。1ヶ所で見られると見やすい。星の近くだと楽しめる。遠いとみているうちに場面が変わってしまい、わからなくなる。夜、星の名前がいくつか出ると、この星はなんだというのがわかる。名古屋の場合は、青い文字で面白い話がリアルタイムで出たりする。松戸のときは空が暗いので赤い文字ではっきりしなかった。他は同じような感じ。
- D/ 東京では先日3回目が終わった。少しずつ人数が増えて、小さいプラネなのでほぼ満員。1年に1回だったのを、1年に4回くらいにして、次のPRをつなぎたい。アンケートでも好評。浜松の噂も聞いている。銀河鉄道をやってほしいという要望があったりした。これからは同じように年4回など、頻度を上げるとPRできると思う。
- E/ Dさんと同じで、新宿の場合は、星座の話が多い。もっと他のいろいろな星も映してほしい。難聴者の場合は文章はだいたいわかる。話の内容もいろいろあったほうがよい。
- A/ 私たちはわかりやすいだろうと思って、星座や七夕の話をするが、天文学(研究)の話を聞きたいという要望もあるということか？
- E/ そうだ。もっと幅広く見たい。
- A/ いまやっているのも、聞こえない人が少ないと企画が出しづらい。
- F/ 新宿のコズミックホールでは3か月ごと、年4回季節でやる。区の補助金で、年1回。最初が秋だった。秋は面白い星座がない。季節をずらした。新宿の場合はそういったプログラムが6~7年分ある。星は同じだが、物語はいろいろある。前にやっていたのは恐竜の話。あるいはインカ。大昔の人が星を見て考えた話。新宿の場合は難聴者が来ないという話はなかった。特別上映の日を決めて、聾学校や難聴者協会の人に集まってもらう。プラネのほうがお客がくるので、悪くはない。ただ、UDという観点だと、みんなとっしょに見たいという感覚はある。一般上映の中でやるというのが新宿の課題。60人余集まって3人とかいうのは、5%くらい。手帳の所持率とっしょ。一般上映でこの割合というのはすごいことである。手帳を持っていない人でも、よかったという人はいる。人数のことは気にしないでやるのがいいな、ということ。(手帳とは、障害者手帳をさす。:集録編集者注)
- J/ 人数の話が出たが、上の人が数字しか見ない。数字でしか判断しない。今回も来なかったねとか言われた。考えてみれば、札幌180万人でもプラネ利用者は10万人くらい。障害者の中で字幕つきを見たい

という人は少なくなって当然。3%は少ないのではなくて多いのだなという理解ができればよいのかなと思う。心強い。館長に進言したい。

H/館では字幕投影を公開したことはない。聾学校向けに個別に作って投影したことはある。そう経験があるわけではない。毎回工夫をして作っているが、耳が使えない、天文学者のグドリックという人の話を絵を描いて、それと星を見せたこともあった。経験がないので、視覚障碍の話と合わせて話をすると、視覚の投影は2回あったが、2回目は来場者は少なかった。ただ、はじめて見た視覚障碍者が感激していた。少ないなあというものがっかりしていたこと。もう1つは、投影の内容も少しずつ変えていかなければならないという課題も知らされた。視覚障碍者の方からいいアドバイスがあったが、1回の投影ですべて伝えるのではなく、今日はこれだけ、また見に来てね、とするのもいいんじゃないか。やはり字幕投影もそうだが、UDでお年寄りや子供にはわかりやすいという利点もある。わかりやすい投影というのは、いろんな投影のある中で1種類としてとらえて、人数が少ないことは話題にしないくらいの気持ちで続けて行くのが重要ではないか。

B/ユニバーサルデザインというのは聞こえないひとだけではなくて、高齢者なども楽しめることが重要。聞こえない人だけを対象にすると幅が狭い。高齢者・子供のことも考える必要があるのではないか。

G/私は立場が違うので、ボランティアの立場でかかわっている。ボランティアの立場からいうと、科学館からの要請を受けてやっている。科学館の方はwelcomeで、回数は増やしたい。でも年2回以上は無理ですというふうに行っている。スタンスとしてはいろいろある。名古屋の場合はボランティアが前面になっているが、川口などでは館が主体となってやっているの、問題になるのではないか。社会貢献という意味で捉えなおすと、館の態度も変わるのではないか。

F/新宿の場合はなごや組さんに似ている。IPTalkを使ってプラネ館のほうにぜひやらせてくれというように持ち込んでいる。当日の協力などはやるが、館からは事前のシナリオファイルと録音のデータ。オートであることが欠点でもあり利点でもある。困るのは解説員が熱心で、空きがあるとしゃべられてしまう。ただ画面の設定がちがうので、生打ちのデータをはめ込むことができない。さらに、パソコンを打つとドームが明るくなってしまうので、遠隔操作をせざるをえない。先日、シナリオの前に概要を話された。そのときは暗くなる前なのでパソコンの生打ちをした。ネタバレで困るなあと思ったが、事前にその話をしていたので、首の移動があっても理解が深まったという感想があった。昨日かいつか、スライドか何かで星の位置を出して解説を加えたという工夫があったが、参考になった。

A/科学館の立場からいうと、ボランティアの探し方に苦慮している。ホームページで募集するなどのことはやっているか。

F/要約筆記サークルはたいいホームページを持っている。たくさんある。

A/ボランティアだけではなく広報としても協力していただけるので期待しているが、川口の手話サークルではそういう様子がない。要約筆記にも声をかけるべきだった。

C/手話のできるボランティアの方をお願いして、聴覚障害者新聞にも載せてボランティアを募っている。

D/東京都の中途失聴の協会でやっているが、川口でも埼玉全域に声をかけてはどうか。手話サークルはいっぱいあるはず。埼玉では字幕は川口だけ。埼玉全部の館でやると相乗効果がある。

H/質問。どこに広報すれば効果があるか。たとえば、目の不自由な方はラジオがいいという話を聞くが、あとは点字新聞。聴覚はどうか教えてほしい。

C/石川支部の場合は、聾者の新聞があるが、天文の説明の下のほうにPRを読みやすく大きく載せている。そこで集まっていただけ。びっくりしたことがある。

A/他に聞こえない方が情報を得るために利用するのは？

- G／聾者も中途失聴者も協会を持っている。口コミがはやいのでは？
- J／どこに発信していいかわからない。学校関係は行くが、ホームページを検索して協会があることを知ったが、いきなりだったが、字幕つきプラネのお知らせを送っていいか聞いた。1 か月半くらい前に送っている。ただ、チラシを見て来たかどうかはアンケートからはわかっていない。広報を見て来たという人がいちばん多い。ネットワークはうまく活用していければと思っているところ。
- B／聞こえない人が情報を得るために使うのがデフユニオン。なにか募集するときに載せるだけで、興味のある人が見るので、とても効果がある。
- H／全国か？
- F／そうだ。メンバーになるとデフニュースというメールがくる。毎日 5～10 件。効果は大きい。
- G／<http://www.deaf.or.jp/>。(2011 年 12 月 31 日で運用終了。ただし閲覧は可能:集録編集者注)
- B／私の会社は八丈島でユニバーサルキャンプをやっている。デフユニオンに出したところ、15 人くらい来た。効果はある。
- A／それは貴重な情報です。字幕つきの映画を見に行きたいというネットワークづくりをやっていききたい。天文教育普及研究会の WG としてユニバーサルデザイン天文研があり、研究会のメンバーでなくても加入できる。できればそこで情報発信をできればいいなと思う。
- H／アドバイスください。
- A／何年もやってて、お客さん来ないな、と思うことがある。手話を習いに行っても情報が入ってこない。デフユニオンの話が聞けてよかった。
- G／新聞にしつこく宣伝に行くと、取材に来てくれる(大きな事件がなければ)。それも利用するといい。社会部も新聞を見るとメールアドレスが書いてある。取材依頼を入れておくとコンタクトがあって進む可能性がある。
- A／B さんが言っていたように、科学館に行くまでに不安があるというが、どういうことか。
- B／足を運ぶきっかけづくりというところから始めるといい。聾学校で出張プラネをして、続きは館でとすると、足を運ぶのではないか。
- C／以前は聾学校にも行ったが、理科の先生に聞いたら、作るお金がないという話だった。
- H／移動式プラネタリウムを持っているところは少ない。
- F／質問だが、住んでいる多摩市の公民館で移動式プラネタリウムをやっているという話で、今週行く。聴覚障害の方が楽しめるように字幕つきが可能かどうか確かめてみるつもり。移動式の中で字幕をやる方法は？
- H／既存のプラネでも難しいので、どうしようと思っている。
- A／半径が小さいので文字がゆがむ。
- J／天体観望会なども科学館では行っていて、天気が悪くて中止になることがある。晴れているときにつかうのがステラナビゲータ。これに字幕をつけて難聴の児童たちに星空解説をした事例はある。それこそ字幕つきプラネタリウムをやってほしいという依頼でやったものだが、ステラナビゲータのハードコピーに字幕をつけて、続きを館でということにした。来場者は増えた。
- H／聴覚障害者が行きたいと思ってもらえないと、来ないのではないか。館に行っても受け入れてもらえることがわかってもらえないと、来てもらえないのではないか。アイデアはないか。
- B／聞こえない人は、文よりも、写真などを見るのが好きなので、今日の講演で星の写真がいっぱいあったが、そういうのも効果がある。
- C／字幕のほかのこともいいですか？ 字幕投影もいいが、観望会を優先して、いろいろな人を集めて、

望遠鏡で見ってもらうことに興味を持ってもらって、感動を与えると、来場者が増えるのではないかな。観望会が終わったあとにプラネのPRがあると、人が増えるのではないかな。

A/Cさんが星に興味を持たれたきっかけは？

C/私のきっかけは流星。大流星群が来て、ものすごい印象があった。友人が望遠鏡を持っていて、星が近くに見えたり金星がきれいで感動したり。もうひとつは天の川です。その美しさに感動したり、北斗七星のミザールが2つに見えるかどうか目が検査に使われるということを聞いて、それがはっきり見えたときに感動した。望遠鏡でアルビレオ（赤い星と緑の星がくっついている）がきれいに見えたなど、多くが重なって、いろいろ感動を受けた。その積み重ね。それでみんなにも知ってもらいたくて、PRをした。だんだん募集して人数が増えた。遠くの方もメンバーになって、入りたいと言っている。どんどん大きくなっている。遠くで支部を作ろうという話で石川支部が立ち上がったたり、みなさんの天文のガイドブックにも聾者の回をPRした。新聞の半分くらいの面で大きく説明や望遠鏡の写真載せて、聞こえない人の会員も増えた。土星や木星の観望会で感動した方が多いので、日食などいっしょにツアー募集して見に行ったり、予想外の感動が大きくて、会としては人数が増えている。情報交換で、金沢のプラネに字幕つきの申請をしたりしていた。聾者が集まって星の楽しさを知った人も。字幕の有無を比較すると、字幕がないとつまらないということがわかった。

A/いまの話で、一般の方でも月を見て星が好きになったという話を聞くと、聾者も同じではないかな。そうしたいと思った。

H/きっかけというか、敷居が高いイメージがあるので、受け入れられる工夫が必要。

A/みなさんよろしいですか？ グループディスカッションをおわりにしたい。

## (6) グループ6の議論のまとめ

### <議題>

どうすれば、マイノリティー側から発信できるか？

その人たちの声なき声をどのようにひろうことができるか？

### <議論>

#### (1) やわらかい「場」作り

・(例えば、病院などで)参加してもらいたい人が参加したい時に気軽に来てもらえる「器(うつわ)」・「場」を用意しておく。

・その場は、「〇〇対象」という目的があってもいいが、「〇〇対象」と特化したもの、または「こうあるべき」といったようなかたくな、決まり事の多いものではなく、やわらかい(柔軟な)場を用意しておく。

・サービスを受ける側から「もういい」と言われた時に、引き下がれるかがポイント。相手の領域に踏み込まない程度に近づく。当人たちが望んでいない「過剰サービス」になることがない様、「〇〇してあげる」ではなく、「一緒に行こうよ」といった軽い気持ちで接することが大切。

・(Kさん)にこにこトマトからのメッセージ

「いつきてもいいよ 誰がきてもいいよ

ねころんでもいいよ 帰ってもいいよ」

常に場を用意するが、参加するかどうか決めるのは当人。

#### (2) 気軽に意見を言える・言ってもらうためには？

・サービスを受ける側には意見を言える人と言えない人がいる。意見を聞きかたかったら待つ態度が必要。



- ・お互い信頼関係ができると、意見を言いやすくなる。(サービスを受ける側、提供する側共に)「お互いこうなんだよ」と言える場作りが必要。そういう機会がある毎に、点と点がつながって線になり、線と線がつながって面になるように、人と人のつながりが広がってゆく。
- ・当人たちが嫌がらない範囲で通信・報告などに載せるのもひとつの手。通信に自分の写真が載ると嬉しいので、刺激されて積極的に参加したり、意見を言ったりできるようになる。
- ・インターネット上でのやりとりだけでなく、時々直接顔をあわせることが大切。
- ・科学教育・普及でも「科学を伝える」ではなく「人同士のつきあい」から始める。
- ・(会合などの最後に、今回の研究会のように)最後に意見を言える場を設けると、お互い言いたいことを言えるのですっきりして良い。そこからつながりが広がってゆき、情報を発信しやすい場ができてゆく。
- ・マイノリティー側も、発言できるトレーニングが必要。そして、そういった意見を吸い上げて、そのニーズをどのように実現できるか考えられる社会作りが大切。